



## 大奥の終焉

版籍奉還から 2 年後の廃藩置県において藩が解体するなかで、大奥も終焉をむかえます。明治 2 年（1869）9 月には、新たに家政を統括する「家扶」「家従頭」等の職制が定められました。

この年末には、春嶽附の女中を「中奥」と称し「家従頭」（男性役人）が管轄し、勇姫附の女中を「大奥」とし「裏取締」が取りしきるとされました。さらに廃藩置県の前には「中奥」「大奥」は合併され、「女中頭」を筆頭に職階が簡素化され諸手当が削減されていきます（『越前松平家家譜』慶永・茂昭）。

華族は東京に居住するとされたため、勇姫は明治 3 年（1870）3 月に福井を出発して、青松院とともに東京へ転居しました（春嶽は 69 年 4 月～）。知藩事を解任された茂昭は明治 4 年 8 月に福井を離れ、10 月には正室幸姫と信次郎（康莊）も東京へ出発しました。



勇姫と女中たち（明治期 小出家文書 福井県立歴史博物館蔵）